

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1492100043
法人名	株式会社 白寿会
事業所名	グループホーム ふあいと山崎の里
訪問調査日	平成20年1月18日
評価確定日	平成20年2月29日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1492100043
法人名	株式会社 白寿会
事業所名	グループホーム ふあいと山崎の里
所在地	247-0066 鎌倉市山崎560番地 (電話) 0467-42-5011

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成20年1月18日	評価確定日	平成20年2月29日

【情報提供票より】(平成20年 1月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 19年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	10 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 12.2 人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	52,500 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(450,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1785 円	

(4) 利用者の概要(1月10日現在)

利用者人数	14 名	男性	4 名	女性	10 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85 歳	最低	75 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団平平会 橋本クリニック
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは株式会社 白寿会の経営である。鎌倉の橋本クリニックが母体の医療法人社団平平会とは同系列の会社で関連グループ施設として有料老人ホーム「はなみずき」、グループホームは「パティオつくいけ」「ふあいと宮沢」「ふあいと勝田」「ふあいと青葉」そして5月末オープン「ふあいと天神橋」などを展開している。医療に関するノウハウを活用し、橋本クリニック院長先生が各グループホームの訪問診療を担当し、24時間対応体制を整備し、医療連携加算を実施し、ご利用者さんのターミナルケアについてはご家族が希望されれば対応出来る体制を整えている。「ふあいと山崎の里」は19年8月に白寿会が旧「鎌倉・山崎の里」を引き継いだもので、入居者・職員も引き継いで白寿会のノウハウで経営を新規に展開している。新体制移行に伴うスタッフ、利用者、ご家族との関係作り注力している。橋本先生が毎週往診に来てくれており、医学面での充実が実現している。法人内相互の連携は強く、中核となる「はなみずき」があるのでここをベースとした研修会、勉強会を持ってレベルアップに努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 平成19年8月に白寿会が引き継いで経営を開始したが、利用者さんは殆んどが前からの継続であり、この5ヶ月強は利用者さんに変化を感じさせず、スムーズに新体制に移行する取り組みに終始し、残り7ヶ月弱の1年目はスムーズな移行と白寿会の書式の定着のため、職員の意見を聞き、理解を促し、前の良い点は取り入れる形で且つ白寿会の書式に沿った形で移行出来るよう職員と話し合い、会議を持って進めている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 平成19年8月白寿会が経営を引き継ぎ新体制になり、管理者も変更したので今回の自己評価は管理者が原案を作成し、フロアリーダーの意見を聞いて作成し、フロアリーダーから一般職員におおしてミーティングで確認し、方向付けする方法で進めた。体制が固まると思われる次回の評価ではボトムアップからの自己評価を検討して行きたい。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 鎌倉市としては平成18年より運営推進会議は開催されており、旧「鎌倉・山崎の里」での開催はあったが、白寿会が経営を引き継ぎ新体制になってからの第1回目を昨年12月に実施し、2回目以降は偶数月の第3水曜日15:00からと日時を決め予定して頂くことにした。メンバーは町内会長、民生委員、鎌倉市役所の職員それに管理者である。第1回目のことでもあり、町内会長、民生委員とのコミュニケーションを中心として進め、町内行事の参加や防災などのご近所の連携など身近な話題が出され、今後もテーマとして取り組んで行くこととなった。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 特定な方を除けばご家族は比較的良く訪問してくれている。ご家族の来訪時には個別に、充分にお話を聞き、状況をお話するようにしている。毎月、請求書、小口資金の清算書に併せて居室担当が手書きの近況報告を写真を添えてお送りしている。白寿会が経営を引き継いでも利用者さんは殆んどが前からの継続であり、新体制に不安を感じる事の無いようご家族には充分ご理解を頂くべく対応に努めている。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地元の人である大家さんの協力もあり、運営推進会議以降は町内会長、民生委員との良い関係が出来て町会の集会場の使用を認めて頂いたり、行事への参加をお誘い頂いたり、町内会への参加が出来、回覧板が回って来るようになった。町内会活動ではゴミ収集や防犯巡回への協力などを行っている。現在、近隣の中学校の体験学習の受け入れをすべく打診中である。玄関の前での花火大会などでご近所に参加を呼びかけたりしている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者を中心に新生ふあいと山崎の里としてのグループホームについてあるべき方向性を充分理解し、職員で作成した理念に基づき、地域密着を念頭に置きながら日常業務を行う上でも繰り返し説明している。		今後も継続して実施して行く。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、各ユニットに理念・方針を掲示し、日々、理念・方針に添って業務遂行出来る様に努力している。		今後も継続して実施して行く。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	昨年までは、参加出来ておりませんでした。昨年の運営推進会議(2回)より町内会の方々と、コンタクトを取ることになり地域の方々に少しずつではありますが受け入れられるようになりつつあります。行事には出来るだけ参加し近隣・地域の住人として交流を深めていきたいと考えています。	○	今後、中学校の学生さんにボランティア参加をお願いして行きたいと考えています。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の機会を得て更に職員の意識向上を図っていきたく思います。今回の結果が出次第、職員との話し合いを設け今後の参考、改善につなげていきます。	○	職員との話し合いを設け今後の参考、改善につなげて行く。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は旧「鎌倉・山崎の里」での開催はあったが、白寿会が経営を引き継ぎ新体制になってからの第1回目を昨年12月に実施し、2回目以降は偶数月の第3水曜日15:00からと日時を決め予定して頂くことにした。運営推進会議にてご提案を頂き、今後、地域に貢献できるようにして行く。		家族に片寄りがなく参加して頂けるよう検討して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には鎌倉市役所の職員が出席しており、近隣のケアプラザとはまだ連絡がとれていません。今後、運営推進会議を通じて交流を深めていきたいと考えている。他の機関も把握していきたいと考えている。	○	引き続きアプローチを続けて行く。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月近況報告(行事の写真なども)をご家族に郵送している。面会時にも最近のご様子を報告している。緊急性のある場合は電話連絡している。出来る限り異動は無いようにしている。		今後も継続して実施して行く。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・苦情を遠慮なく表明して頂ける関係作りに努めている。相談・苦情・ご意見を明記して頂ける様に、匿名で記入できる様に用紙を置き、ご意見箱を玄関に設置している。	○	職員への意見の場はありますが、定期的な家族の面談も検討していきたいと考えている。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人が変わり多少職員が変わりましたが馴染みの職員、新規の職員がコミュニケーションを取りながら入居者様に不安を与えないようにご利用者様に配慮している。異動がある場合は個々に合わせて説明を行い最小限になるよう努めている。		今後も継続して実施して行く。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験に応じて研修に参加する機会を作っている。日常業務の中でも職員の経験や能力に応じ認知症対応の留意点を随時指導している。またOJTを実施している。外部からの研修内容を誰でもが閲覧できる体制を整えている。		今後も継続して実施して行く。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他施設との交流を始めている。このような機会を拡充していきたいと考えている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	携わっている方から出来る限り情報収集する事に努め、ご本人が安心して頂くために強制的に入居を勧めるのではなく、ご本人の気持ちを第一に考え、何度でも見学して頂けるように配慮している。		今後も継続して実施して行く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常業務で職員は介護するのではなく、共に生活するという事である。個々に出来ることはして頂き常に尊敬する姿勢を心がけ無理・強制はせず日々、職員共に楽しく充実した生活が送れるように努めている。		今後も継続して実施して行く。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の日頃の訴えや、希望などを、ケースカンファにてケア・ケアプランに生かしている。		今後も継続して実施して行く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人とスタッフ、家族とスタッフそれぞれに話し合う機会を持ち、管理者・ケアマネージャーを中心に意見交換をした上で、ケアプランを作成している。ご家族にプラン作成後、確認して頂いている。面会の頻度の少ない家族も多いため、話し合いの機会が確保できる様工夫して行く。		今後も継続して実施して行く。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日常生活に組み込み、現実可能なプラン作成を心がけている。ご本人の状況に変化に合わせて見直しを行っている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	柔軟な対応はしておりますが、ご家族様にご協力を得ることもあり臨機応変に対応している。		今後も継続して実施して行く。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業団体である橋本クリニックの全面的な協力を得ながら、週1回の医師の往診、週に1回の看護師の訪問の他にも、提携歯科の往診や近隣の医院への通院を行っている。		今後も継続して実施して行く。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時契約において、医療加算と終末期医療に関する説明、同意書を交わしており、また必要な時期には面接や電話連絡において医師、ホーム、家族、ご本人の意識確認と方針の共有を図っている。		今後についてはご家族の意向を聞くべき時間を取り、ご本人が安心して頂けるケアをしていきたいと考えている。医療面は医師・看護師を中心に行っていききたいと考えている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊厳を傷つけない様に言動に注意している。個人情報となりうる記録は事業所から持ち出さない、破棄する書類についてはシュレッターを使用して注意をしている。		今後も継続して実施して行く。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの入居者様のペースを尊重した暮らしに努めている。同じ空間で安心感を得ながらも、個々の趣味、やりたいことなどの姿もみられるため自然で家庭的な雰囲気の流れている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の体調を考慮し、お手伝い(盛り付け・食材のカット)をお願いしている。栄養士献立によりバランスが取れているので満足は得ている。		今後も継続して実施して行く。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に午後から入浴しております。体調の変化もあるが、出来るだけご本人の希望に沿った配慮を行っている。		今後も継続して実施して行く。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ケアプランプランに添って、役割や楽しみを増やして、張り合いを持って過ごして頂いている。個人のための個人ケアを工夫して今後も取り組んで行く。		今後も継続して実施して行く。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調に応じて買い物や散歩など出きるだけ戸外へ職員と一緒に出かけるよう努めている。		今後も継続して実施して行く。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は鍵をしております。状況、必要に応じご自分で外に出たい場合は、鍵を明け自由に行き来できるようにしています。入居者様が自由に行き来出来る様な体制にして行く工夫を今後も継続して検討して行きたいと考えます。	○	鍵をかけない体制の工夫を継続して行く。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年間2回の避難訓練の実施(市からの要請)と、避難場所を掲示し確認、入居者様の避難誘導の優先順位を明確にして行きたいと考えます。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日を通して食事量・水分摂取量を記録し、月始めに1度体重測定を行っている。個々の咀嚼に合わせて食べやすく工夫をしている。栄養バランスには、外注のメニューで行っている。		今後も継続して実施して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地の良い空間、快適性に配慮してBGMになじみの曲(童話・歌謡曲)を流し、工夫をしています。日差しはレースのカーテン、ブラインドで調整しています。季節感を感じるものも置き和やかに過ごして頂いている。		今後も継続して実施して行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご本人の好みや使い慣れたものを置いて家庭的な雰囲気、使いやすいようにまた、安心して過ごせるよう勧めている。		今後も継続して実施して行く。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム ふあいと山崎の里
所在地 (県・市町村名)	247-0066 鎌倉市山崎560番地
記入者名 (管理者)	高橋 正
記入日	平成 20 年 1 月 7 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者を中心にふあいと山崎の里としてのグループホームについてあるべき方向性を充分理解し、職員で作成した理念に基づき日常業務を行う上でも繰り返し説明しております。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、各ユニットに理念・方針を掲示し、日々、理念・方針に添って業務遂行出来る様に努力しております。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	契約時には家族にも詳しく説明しています。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩の折には挨拶を交わし、職員自らが積極的に地域に溶け込む努力をしています。しかし、地域との交流がまったく無く閉ざされた環境になっていました。	○	今後、町内の皆様、に参加して頂ける行事を考えております。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	昨年までは、参加出来ておりませんでした。昨年の運営推進会議(2回)より町内会の方々と、コンタクトを取ることになり、地域の方々に少しずつではありますが受け入れられるようになりました。	○	全ての行事とは行きませんが、出来るだけ参加し近隣・地域の住人として交流を深めて行きたいと考えております。中学校の学生さんにボランティア参加を今後、行って行きたいと考えております。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	取り組みは行ってはおりませんが、必要に応じいつでも協力体制でいます。		運営推進会議にて、協力出来る事をご提案頂いており、職員と検討して参加、協力させていただきます。また、近隣の高齢者が遊びに来られやすいホーム作り。
---	--	------------------------------------	--	--

3. 理念を実践するための制度の理解と活用

7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の機会を得て更に職員の意識向上を図っていききたいと思います。	○	今回の結果が出次第、職員との話し合いを設け今後の参考、改善につなげていきます。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にてご提案を頂き、今後、地域に貢献できるようにしていきます。又、利用者様家族の方々も参加され、意見も考慮しております。		家族に片寄りがなく参加して頂けるよう検討していきます。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	近隣のケアプラザなどと連絡がとれていません。	○	今後、推進会議同様交流を深めていきたいと考えております。他の運営機関を把握していきたいと思ひます。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者(ご家族申請にて)がいらっしゃいます。		ご家族からも学ぶ機会もあり、勉強する機会を今後増やす予定です。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について関連法の資料を職員個々に配布し、知識・認識を深め虐待の無いように細心の注意を払っております。会議において共有化を図っております。また不審なことや、言動があった場合は報告を受けるように伝えてあります。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	---------------------------------	------	----------------------------------

4. 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書を通して契約時に詳しく説明を行い理解を得ています。解約時は、手順をふみ、できる限り協力しています。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は出きる限り利用者と個別にコミュニケーションするようにして、そこで得た意見を尊重しています。また、内部・外部の苦情窓口を玄関に掲示しております。苦情の申し立てには速やかに対処するように努め、対応・経過を記録に残します。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月近況報告(行事の写真なども)をご家族に郵送させて頂いております。 面会時にも最近のご様子を報告をさせて頂いております。 緊急性のある場合は電話連絡にて報告させて頂いております。 出来る限り異動は無いようにしております。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・苦情を遠慮なく表明して頂ける関係作りに努めております。相談・苦情・ご意見を明記して頂ける様に、匿名で記入できる様に用紙を置き、ご意見箱を玄関に設置しております。	○	職員への意見の場はありますが、定期的な家族の面談も検討していきたいと考えております。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に全体(職員全員)で1回、各ユニットで1回行い、意見・提案を開く機会を作っています。出された提案を検討し、改善を図っています。月に3度の法人の幹部会議にて職員の経営者、幹部の方に向けて職員からの意見を議題として、検討する題材として提出、報告を行っております。	○	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の体調変化、職員の緊急時の欠員は勤務表にて確認し必要に応じて必要であれば、シフトの調整をして利用者の安全確保を堅持しております。職員同士でコミュニケーションを取り、助け合いながら業務遂行しております。職員の意識の向上、連携に努めております。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人が変わり多少職員が変わりましたが馴染みの職員、新規の職員がコミュニケーションを取りながら入居者様に不安を与えないようにご利用者に配慮を行っております。異動がある場合は個々に合わせて説明を行い最小限になるよう努めております。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み	職員の経験に応じて研修に参加する機会を作る努力をして		

19	<p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>います。日常業務の中でも職員の経験や能力に応じ認知症対応の留意点を随時指導しています。またOJTを実施しております。外部からの研修内容を誰でもが閲覧できる体制を整えております。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人内の他施設との交流を始めています。このような機会を拡充していきたいと考えています。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>共済会を発足。年に数回ですが、グループホーム職員が集まり、ボーリングなどで親睦を深めストレス発散をしています。管理者その都度、ストレス、個人的に相談があった場合機会を設け意見交換、ストレスを傾聴し解消して頂けるよう留意しております。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>日報を運営者が確認し、職員の勤務状況を把握しています。研修時のレポートや、全職員の自己評価を実施し、努力や実績を公平に評価しております。管理者、リーダーの意見も充分反映させています。</p>		

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居者様の本音を伺うのは難しいものですので、出来る限り他の方(ご家族、ケアマネジャー)などからも状況を聞き自然体のなかでお聞き出来る様に努めております。また状況に応じ、見学や入居されている方とコミュニケーションをとって頂き安心感を得られる様に努めております。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居様宅への訪問・グループホームの見学・電話など納得いくまで相談を受け容れる配慮をしています。</p>		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご本人の心身の状況を客観的に考慮して、ご本人にとって最善の生活が出る様支援しています。また、最初から入居を前提とした話ではなく、場合によって「家族の困っている事」を伺いグループホームの段階ではない場合は、他のサービスを進める事もあります。</p>		

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	携わっている方から出来る限り情報収集する事に努め、ご本人が安心して頂くために強制的に入居を勧めるのではなく、ご本人の気持ちを第一に考え、何度でも見学して頂けるように配慮を行っております。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常業務で職員は介護するのではなく、共に生活するという事です。個々に出来ることはして頂き常に尊敬する姿勢を心がけ無理・強制はせず日々、職員共に楽しく充実した生活を送れるように努めております。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の意向を常に尊重した支援に努めており、職員も家族の様に近い存在となり入居者様と共に喜び、楽しみ充実した生活を送れる様に支えあう関係を保つように努めております。共にグループホームを造っていくために家族会でよりご家族様とコミュニケーション強くしていく。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居後も出来る限りご本人とご家族のパイプ役となり、常に連絡、情報をお伝えし関係を深く保つ様に努めております。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族を含め、ご本人に大切に思っている事を尊重し努めております。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々の生活・性格を考慮し、共同生活をしている中で自然体で日々を送れるよう職員の細やかな配慮で声かけを忘れず環境作りに努めております。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在行ってはおりませんが、ご家族のご希望などを踏まえて今後、退居されたことを想定してご家族とコミュニケーションを取っていきたく思います。		ご本人が安心して頂くことを重視し、ご家族の意向を尊重しながら、退居後も適切なサービスが受けられるよう配慮してまいります。

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の日頃の訴えや、希望などを、ケースカンファにてケア・ケアプランに生かしています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面談で、ある程度の生活歴は把握しますが、入居後に人間関係を深める中で、さらに情報を得るように努めています。生活してきた事を聞くことにより職員も学んでおります。		回想法(グループ・個人)で新しい一面も把握できる。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居直後や、状態に変化のあった時には特に、記録や申し送りを密にし、スタッフ間の認識を統一するようにしています。身体の変化は医師もしくは、看護師に報告し指示をもらい対応しております。		

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人とスタッフ、家族とスタッフそれぞれに話し合う機会を持ち、管理者・ケアマネージャーを中心に意見交換をした上で、ケアプランを作成しています。ご家族にプラン作成後、郵送し、確認して頂いております。		面会の頻度の少ない家族も多いため、話し合いの機会が確保できる様工夫してまいります。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日常生活に組み込み、現実可能なプラン作成を心がけております。ご本人の状況に変化に合わせて見直しを行っております。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活記録と連絡ノートをもとに、情報の共有に努めケアプランの実践、見直しを行っております。生活記録に必ずケアプランの実施を記録しております。		

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	柔軟な対応はしておりますが、ご家族様にご協力を得ることもあり臨機応変に対応しております。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	今まで行っていなかったので今後、町内会を中心に地域住民の一人として町内の行事に出来るだけ参加して頂き、入居者様の社会性の維持に役立てていきたいと思っております。		近隣のケアプラザ、地域センターの行事など、近隣の一般の方や、ボランティア(中学生)の活用についても、今後受け入れの幅を広げて行きたいと考えております。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在他のサービスを利用するケースはありませんが、ケアプラザ・地域センターなどを利用していけるようサービスの視野を広げていきたいと考えております。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	成年後見制度の利用についても、知識を深め、必要な際には活用できる準備をしております。奈良地域ケアプラザとは同地域の事業所としてスタッフも行き来し、密接な関係を築いております。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業団体である橋本クリニックの全面的な協力を得ながら、週1回の医師の往診、2週に1回の看護師の訪問の他にも、提携歯科の往診や近隣の医院への通院を行っております。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	事業母体である橋本クリニックの橋本理事長は有料老人ホーム、複数のグループホームにおいて医療に当たっており、認知症患者に関する知識、経験とも豊富であり、適切な医療を提供しております。また、母体の橋本クリニックの橋本理事長以外のDrもおられるので、こちらも月に2回の往診があります。		
	○看護職との協働	母体である橋本クリニックに常駐している看護師が週1回の		

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	母体となる個室ユニットに常駐している看護師が週1回ペースでホームに訪問巡回を実施しており、入居者様も訪問を心待ちにし健康管理に加え、精神的支えにもなっております。又、看護師は、携帯電話を24時間所持し、随時相談に当たれるよう待機しております。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した入居者様に関する連絡事項がある時には、病院側と連絡を取り合っています。入退院に備え、ホーム側も病院側も看護サマリーを用意し情報交換を行っております。ご家族の指示により、必要に応じ面会を行い様子を伺っております。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時契約において、医療加算と終末期医療に関する説明、同意書を交わしており、また必要な時期には面接や電話連絡において医師、ホーム、家族、ご本人の意識確認と方針の共有を図っております。		今後についてはご家族の意向を聞くべき時間を取り、ご本人が安心して頂けるケアをしていきたいと考えております。医療面は医師・看護師を踏まえて行っていきたいと思いません。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	出きる限りグループホーム内で馴染みの環境で、ご本人が安心して、残された力を活かして穏やかに暮らせる事を、大切に考え、グループホームにおける医療のさらなる充実をはかっております。変化に応じ医師・看護師に連絡し介護・医療の両面からサポートを行います。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居時における環境の変化が、ご本人にとって最小限の影響で済むよう、入居のタイミングには、ご家族、ご本人の状況を考慮しております。環境の変化には職員も細心の注意を払っております。介護・看護サマリーは必ず共有するようにしております。		入院時のサマリー提供について、緊急時に早急に提示出来る様、事前に揃えておきたいと考えております。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊厳を傷つけない様に言動に注意しております。個人情報となりうる記録は事業所から持ち出さない、破棄する書類についてはシュレッターを使用して注意しております。		現在の記録については、実名を記載しておりましたが、今後個々の記録に他の入居者を入れる場合はイニシャルを用いて使用します。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員の意向を優先させるのではなく、入居者様の自己決定の尊重を心がけています。普段からコミュニケーションを図ることで入居者様から言い出しやすい環境を作っております。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの入居者様のペースを尊重した暮らしに努めています。同じ空間で安心感を得ながらも、個々の趣味、やりたいことなどの姿もみられるため自然で家庭的な雰囲気が流れております。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみについてはこちら側から強制するのではなくご本人の意向、ご家族の意向を尊重してまいります。2ヶ月に1回理容を実施しております。衣類の購入に関しては、ご本人の希望に沿った物を購入し、またご家族にお伝えし、購入して頂いております。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の体調を考慮し、お手伝い(盛り付け・食材のカット)をして頂ける所だけお願いしております。栄養士献立によりバランスが取れているので満足は得ている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	外注より発注もしておりますが、好きなもの・食べたいものをお聞きし購入し召し上がって頂いております。また、職員と一緒に作ることもあります。		各ユニットで購入方法が違いますので臨機応変に対応していきたいと考えております。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表にて確認し、日中・夜間の使用品を変えております。排泄に失敗しても自尊心を傷つけない様また、不安にならないように声かけに工夫し心がけています。個人に合わせて、納得して頂ける介助を行っています。個人に合わせて納得して頂ける介助を行っています。		
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に午後から入浴しております。体調の変化もありますが、出来るだけご本人の希望に沿った配慮を行っております。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	それぞれの習慣や体調を尊重して安全なホームでの生活が送れるように散歩・買い物等をして頂き、安眠できるよう努めています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ケアプランプランに添って、役割や楽しみを増やして、張り合いを持って過ごして頂いている。		個人のための個人ケアを今後取り組んでいく検討をしております。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全入居者様の金銭管理は管理者の基行っております。ご本人の要請がありましたら対応していきたいと思っております。買い物、外食の際は、個々に合わせてお金の支払いを行っております。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調に応じて買い物や散歩など出きるだけ戸外へ職員と一緒に出かけるよう努めています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事に合わせて、もしくは天気の良い日にドライブに出かけております。ご家族のご希望に合わせてご家族と共に外食、外泊、外出をしております。		個別ケアとしてこれから取り組んで希望に応じて支援していきたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	申し出があればご家族・友人への電話、手紙のやり取りを行っております。電話の際居室で話してもらうようプライバシーに配慮しております。		
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	おおよそ面会時間は9:00~20:00ですが、いつでも歓迎して訪問を受け入れゆっくり遠慮なくご本人と過ごせるよう配慮しています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束の弊害を理解し、拘束のない介護をしています。事務所に身体拘束マニュアルを用意し、現在拘束はありませんが、拘束の必要のない介護の工夫を目指しております。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は鍵をしております。状況、必要に応じご自分で外に出たい場合は、鍵を明け自由に行き来できるようにしています。	○	入居者様が自由に行き来出来る様な体制にして行きたいと思えます。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜共に見守りやすい位置にいて入居者様の様子を把握出来るよう全職員が心がけています。自然体で移動出来る様に見守りを行っております。夜間帯は、時間巡回と別に体調の変化などで送りで報告を受けた場合は特に、随時様子観察を行っております。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者様の状態に応じて、はさみ・包丁等の使用は柔軟に対応しています。消毒、洗剤液などは定物定位の保管を行っております。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者様の身体状況を把握し、転倒・誤薬等事故を未然に防ぐ細心の配慮を全職員が心がけています。	○	今後、月の事故(市への報告を中心に)のデーターを出し、今以上の事故防止対策を考えていきたいと考えております。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に訓練を行っていませんが、急変時初期対応は周知徹底しています。マニュアルの配布、訓練の報告も参照しております。		ホーム内で出来ることの優先順を明確にし、訓練や、勉強会、資料配布を行っていききたいと考えております。
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年間2回の避難訓練の実施(市からの要請)と、避難場所を掲示し確認、入居者様の避難誘導の優先順位を明確にしていきたいと思ひます。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	つまづき、転倒など身体状況に応じてのリスクを家族に説明し、未然に防ぐ工夫をしています。	○	今後も、引き続きその都度の対策を考えていきたいと思ひます。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタル測定、入浴時にバイタル測定、その都度、顔色などを観察し必要があれば随時行っております。普段との比較で体調を観察。必要ならば申し送り等で情報の共有化を徹底しています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとりひとりの服薬中の薬の処方箋をファイルし、必ず各ユニット全員が把握出来る様にしてあります。薬の変更の際にも理由等を連絡簿に記載し、全員が把握・状態観察に努めています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘解消の食材を調理に加えたり、体操をしたり工夫をしています。便秘が3日続くと看護師に相談・指示を仰ぎます。また、水分の強化も心がけております。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、個々の状態に応じ、口腔ケアの実践の声かけをし支援が必要な方には手助けをしています。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保出来るよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日を通して食事量・水分摂取量を記録し、月始めに1度体重測定を行っております。個々の咀嚼に合わせて食べやすく工夫しております。栄養バランスには、外注のメニューで行っております。		
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	グループの看護師の指示のもと迅速に対応するようになっていきます。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	感染症マニュアルなどは各ユニットにおいてあり感染予防について周知しております。インフルエンザ時期などは特に手洗い、うがいの実施をしております。冷凍品の解凍も前日から行い常温解凍はしないよう注意を払い、加熱するものはしっかり行っております。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花の鉢を入居者様と共に植えるなど家庭的な玄関回りになる工夫をしています。もともと緑が多く、交通量の多い所ではありますが、オーナー様のご好意で畑も貸して頂いておりますし、ご希望のある方と職員にて作物を作っております。	○	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地の良い空間、快適性に配慮してBGMになじみの曲(童話・歌謡曲)を流し、工夫をしています。日差しはレースのカーテン、ブラインドで調整しています。季節感を感じるものも置き和やかに過ごして頂いております。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、ソファで気の合う同士座ったり、好きな所でのんびり過ごせるよう配慮しています。一人になりたい方は、居室にて過ごされております。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご本人の好みや使い慣れたものを置いて家庭的な雰囲気、使いやすいようにまた、安心して過ごせるよう努めています。		
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>入居者の体調を十分に考慮して換気・温度調節を図っています。トイレは24時間常に換気、もしくは消臭剤・消臭液を利用して気になる臭いの除去に努めています。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内部はバリアフリーです。(廊下・トイレ・浴室)歩行空間には障害物がないよう配慮し安全が保てるよう配慮しています。つまづくものを床に置かないようスペース確保をしています。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>わかる事、出きる事を積極的に表出できる対応に努めています。出きる事には、先取り介助をしないよう職員は周知しています。食席は決まっております自然に自分の場所と言う認識があるので、混乱もなく安スムーズに行われております。</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>オーナー様のご好意で横の畑を無償でお借りしております。冬時期以外は花や、作物を希望される方が職員と畑仕事を行っております。</p>		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
		○	④全くない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

平成19年8月より法人が代わり、ご家族様、職員は体制が変わる事に大きな不安を感じたと思います。現在入居者人数14名です。満床ではありませんが、個々入居者様が自由に生活出来る空間を大切にしながら、日々努めております。先取り介助をしない・年長者への言葉遣い・できる仕事を奪わない・認知症の世界に付き合う・昔とったきね杵への尊敬と維持・我慢して待つことが我々の仕事など職員一丸となってグループホームらしさを最大限活かして安楽な生活を送って頂けるよう試行錯誤を繰り返しています。総じて、ホームでの日常生活の継続で身体的・精神的に穏やかで安定した変化が確認出来る入居者様が多い事が全職員にも嬉しい驚きであり、士気高揚にもなっています。